

「卒業後も学び続けることのできる児童生徒の育成」
— 認知能力と非認知能力を一体的に育む学校教育 —

京都府教育委員会の策定する「第2期京都府教育振興プラン」では、基本理念の核である【目指す人間像】を「めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人」とし、そのために【はぐくみたい力】として、「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」「新たな価値を生み出す力」を掲げています。

小学校では地域の文化財所有者が、中学校では京都で活躍する企業等が実際に抱える「正解のない問い」に対して、課題を発見、分析し、解決方法を提案する課題解決型の学習を通して、基礎的・汎用的能力の育成を目指しています。

【課題対応能力】	企業が抱える「正解のない問い」に対する解決方法を提案する活動を通して、様々な課題を解決する能力を身に付けるとともに、
【人間関係形成・社会形成能力】	課題を解決する過程を通して、多様な他者の意見を取り入れ、自らの考えを深めるとともに、自らの役割を果たしつつ他者と共働しながらよりよい解決方法を探究する力を育成する。
【キャリアプランニング能力】	実社会における「正解のない問い」に対する解決方法を提案する活動を通して、学校での学びと社会とをつなぎ、社会の一員として自らの役割を果たして主体的に活動する力を育成するとともに、社会と自分との関わりについて考え、今後のためによりよく学ぼうとする力を育成する。
【自己理解・自己管理能力】	

これらの基礎的・汎用的能力を総合的に育成することにより、

- ・チャレンジ精神、創造性探求心等の「起業家精神」
- ・情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション能力等の「起業家的資質・能力」の涵養に資するものとしています。

令和6年2月17日（土）には、成果発表の機会である「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」を開催し、中学校第2学年の生徒が、連携企業等に対して解決方法を提案しました。

○校内での取組の様子

【連携企業等から問いの提示】



【情報収集、課題分析、仮説構築】



【提案、検証から再び情報収集】



○「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」での提案の様子



5月と2月に行ったアンケート結果では、「他の教科で学んだことであっても、教科に関係なく授業中の活動で活かしている。」に対する肯定的回答が22.7%増加した。生徒が教科の壁を越えた学びを実感していることが分かる。